



今回私は、「子どもの『今』を見つめる」というテーマを頂きました。「子どもの今」って何だろうと考えた時に思い浮かんだのは、現在担当しているクラスの子も達の姿でした。様々な言葉を覚え、自分なりに使ってみようとする子、出来事を単語を並べて話すことから「〇〇に行って〇〇をした」「〇〇だから楽しかった」等、短い文で出来事や思いを伝えることができるようになってきている子、体の使い方や力加減がわかってきて出来る事が増えた子、友だちと関わることに楽しさを感じる子、悔しい等の新しい感情がでてきている子等、数えきれないほどの姿があります。一人ひとり違う子どもたち、それぞれへの関わり方も違います。だから私は、関わり方が難しい・わからないと感じてしまう事があります。

ブロックで遊んでいる途中で急に泣き出すA君。前にはたくさんの散らばったブロック。泣いている理由を考えた時、玩具が壊れた・取られた等が考えられます。「もう一度作ればいいのに」と感じる自分がいました。あるとき一緒につくってみました。そうすると壊れた時に一緒に悔しがり、子どもの思いに近づけた気がしました。「あんなにがんばったのにね」と話し「もう一回作る？」と聞くと、「うん」と答えて同じようにもう一回作りました。子どもと同じ体験を一緒にする事で、見ているだけの10倍その子の気持ちを理解し受け止め、同じ『今』を過ごしているような気がしました。

給食の後、うがいをする場面でのB君。毎日のようにコップとタオルを準備するところまではできるのに、そこからうがいをするまでに時間がかかります。次は何をするのかを一对一で聞くと「ぐじゅぐじゅペする」と必ず答えます。その場面だけ見ると理由がわかりませんが、毎日の様子を観察すると、自分でコップの袋を開けようとしています。ひもが固く、2、3回チャレンジした結果開けなかったという場面を見ました。そして出来なかった後は誰に伝える事もなく、周囲の友だちと遊ぶという姿につながっていました。しないのではなく「できない」んだ、「困っている」「伝え方もわからず困っている」等、様々な事実が見えてきて、その子への関わり方が見つかりました。その日から、コップの袋の開け方やうがいまでの準備の仕方を丁寧に伝えながら出来るように援助していくようになりました。

この仕事を初めてまだ一年と少し。最近では、“今この子は何を考えているのだろうか”と子どもの気持ちを考える事が増えました。子どもの立場に立ってみることで、「こうかもしれない」と子どもの気持ちに近づくことが出来たり受け止める自分になれたりすることを実感しています。関わり方が分からなくなる時、頭の中をのぞいてみたくなる時があります。そんな時はゆっくり時間をかけて、よく見て関わって、子どもの姿や背景からヒントをもらいます。

子どもにとって『今』は、生きてきた中で一番新しい日で、初めての事をまた一つ経験する日になるかもしれません。何気ない私たちの日常での出来事でも、子どもにとっては新鮮で驚きで、“誰かに伝えたい”“共有したい”と感じる事かもしれません。そう考えると、一緒に過ごす時間が多い私たちは子どもにとってとても大きな人的環境となり、子どもの『今』と一緒に作ったり感じたりできる存在であると思います。

子どもが今何に興味を持ち何を思うのか、何に困っていてどんな力をつける事が今必要なのか、しっかり関わっていくことや観察する事で、子どもの『今』を見つめる事につながるのではないかと感じます。そして、私自身も子どもと過ごす『今』を見つめ直し、大切に過ごしていきたいです。

(2018年12月)

